

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	0175800325		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム あかるい家		
所在地	夕張郡由仁町東栄16-18 (電話) 0123-83-4080		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月13日	評価確定日	平成22年3月29日

【情報提供票より】(平成 22年 3月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 10月 28日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	15 人 常勤 3人、非常勤 12人、常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:12,000円 暖房費:5,000円(12~3月)
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(3月4日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	0 名	要介護 2	3 名
要介護 3	6 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 81 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	由仁町立病院、 牧野内科、 鳥山歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

由仁町のJR駅近くの住宅地の中にある1階建て1ユニットのグループホームである。敷地内には畑や東屋があり、天気のよい日には利用者が散歩や外気浴を楽しんでいる。平屋の回廊式で風呂やトイレも比較的広く、居間と食堂が一体的で使いやすい。職員や管理者は利用者によりゆったりと穏やかに接しており、小鳥や犬を飼い、癒しのある家庭的な雰囲気を作っている。居間には大きなソファをいくつも配置し、ほとんどの利用者が居間でくつろいでいる。通院や買い物、散歩、利用者の行きたい場所への外出支援なども充実させ、医療機関との協力体制も整っている。同一法人や関連法人の運営するグループホームとは合同で行事したり職員同士が交流をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、地域密着型サービスとしての理念、食事や水分摂取の記録などの項目を具体的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については作成に参加した職員が少なく、職員全体での理解や活用の面で十分といえないので、作成にあたって、幅広い職員の参加に加え、一層の理解と活用を努めること、記載内容の充実などを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、町の福祉課担当者、地域の代表者、利用者家族、法人代表、管理者などが参加して、運営報告のほかサービス評価、地域活動などをテーマに意見交換しているが、開催回数は年に2回程度に留まっているので、計画的に予定を立てて案内し開催回数の増加を図るとともに、討議内容の記録についても充実を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議に参加する家族に意見を聞いたり、代表者が家族来訪時に話し合い意見を聞いている。また玄関にアンケートと回収箱を設置しており、重要事項説明書に事業所と外部の苦情申し立て窓口を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会の夏祭りや清掃活動に参加したり、小学校の運動会を見に行ったりしている。また、事業所に近隣住民が犬を連れて来たり、お隣の奥さんがボランティアで利用者の髪を切ってくれたり子供を連れて来てくれている。近隣住民には災害時の協力も依頼している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の4項目を「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「地域とともに」と定めており、最後の項目は前回の外部評価の結果を受けて事業所独自に追加したものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念をパンフレットに記載し、食堂近くの共用部分に掲示して、ミーティング時に確認し、職員も理念の内容を理解しており、「ゆったりと楽しく」「地域とともに」などを意識して日々の介護にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の夏祭りや清掃活動に参加したり、小学校の運動会を見に行ったりしている。また、事業所に近隣住民が犬を連れて来たり、お隣の奥さんがボランティアで利用者の髪を切ってくれたり子供を連れて来てくれている。近隣住民には災害時の協力も依頼している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、地域密着型サービスとしての理念、食事や水分摂取の記録などの項目を具体的に取り組んでいる。一方、自己評価は作成に参加した職員が少なく、職員全体での理解や活用の面で十分といえない。		自己評価の作成にあたっては、幅広い職員の参加に加え、一層の理解と活用に努めることや記載内容の充実などを期待したい。改善項目に対して職員全員が共通理解をし、改善に向けての取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、町の福祉課担当者、地域の代表者、利用者家族、法人代表、管理者などが参加して、運営報告のほかサービス評価、地域活動などをテーマに意見交換しているが、開催回数は年に2回程度に留まっている。</p>		<p>運営推進会議について計画的に予定を立てて案内し、開催回数の増加を図るとともに、討議内容の記録についても充実を期待したい。管理者以外の職員にも周知徹底が図られるように取り組みを期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の職員が運営推進会議に参加するほか、代表者が町の総合ケアサービス調整会議に参加しており、会議で情報を得ている。また、運営に関して疑問点があれば町の担当者にいつでも相談できる関係にある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に利用者の状況を報告している。ホーム便りを毎月作成して家族に送付し、個人のお知らせとホーム全体のお知らせを掲載し、中には職員の交替についても報告している。また利用者の預かり金の方法は実施しないで、立替払いとしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に参加する家族に意見を聞いたり、代表者が家族来訪時に話し合い意見を聞いている。また玄関にアンケートと回収箱を設置しており、重要事項説明書に事業所と外部の苦情申し立て窓口を明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>常勤職員の異動や離職は少なく、非常勤職員の離職がある場合でも利用者のダメージが見られたケースはほとんどない。職員全体でチームケアを行う体制を取っており、交代の際のダメージを防ぐように努力している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所で年間の内部研修を計画して研修としているが、どのような内容の研修にどの職員が参加したという記録や研修資料が明確となっておらず、外部研修の参加状況の記録や資料の保管も十分とはいえない。</p>		<p>職員の資質向上を目指して計画的な内部研修の実施や外部研修への職員派遣を期待したい。また、研修後の資料の保管や報告会の開催による情報の共有についても十分な取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者や管理者は町内の介護関連事業者の会議に参加して、他の同業者と交流する機会を持っている。一方、職員も同一法人や関係法人が経営する長沼や栗山のグループホーム職員との交流機会を持っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者はできるだけ利用開始前にホームを見学を訪れ、納得した上で利用を決めている。本人の見学が難しい場合は代表者が本人と面談して予め馴染みの関係を築き、利用開始後もしばらく代表者がホームで本人に付き添って、早く馴染めるよう支援している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>個々の利用者にとってどのような介助方法がよりベターかと職員が利用者から教わることも多い。また、トイレ介助や食事介助の際に職員に労わりや感謝の言葉をかけてくれるなど、お互いに支えあう関係ができている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向を言葉で表わすのが困難な利用者も表情や仕草から希望を把握しており、その情報は職員間で共有している。一方、利用開始時に利用者の情報を収集しアセスメントシートを作成しているが、記録の保管状況や情報の追加については十分とはいえない。</p>		<p>利用者や家族から得られた生活歴や嗜好などの情報について適切に記録・保管することで情報の共有を図るとともに、新たに得られた情報を追加していく取り組みも期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成者が利用者の意向や家族の要望を取り入れて、理念に沿った事業所での暮らしを考慮して、介護計画を作成している。生活シートや発症シートなどを参考にして作成した原案を管理者や職員がモニタリングして、後日家族の同意をもらっている。しかし、最近の入居者には十分とはいえない点がある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月定期とはいわず随時、職員はカンファレンスを行い、利用者の介護計画について見直しをしている。期間以前でも現状にふさわしくない場合は、十分検討して新たな介護計画を作成している。概ね3ヶ月ごとに見直し、家族の同意を得ている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所の車を利用して病院の受診を支援している。特に、毎日点滴治療が必要な利用者がいた場合、職員が引率して安全に通院の受診をしている。受診の帰り道、個別に家族や本人の希望で買い物や住んでいた家に立ち寄りたりして気晴らしの支援をしている。利用者家族が遠方から来て宿泊を提供したこともある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医に定期的受診ができるように支援している。全員が外来受診のため、家族の状況を配慮してほとんど職員が同行し、町内のみならず近隣市町の病院へ送迎している。受診の結果は家族に知らせ、職員も連絡ノートを利用して共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における事業所の方針については口頭で説明しているが、書面による取り決めはしていない。実際に入退院を繰り返したり、機能低下が見られたりする状況があり、書面による取り決めの必要性は了解している。		利用が開始される時には説明がなく、事業所としての指針の整備は十分とはいえない。早い時期から書面で方針を共有して、家族と利用者の了解を経て対応されることが求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	たとえ利用者が自己表現が困難になっても、本人本位に、プライバシーや個人情報の取り扱いなど恥ずかしい思いをしないように、職員は日々話し合いと共通認識を持って対応している。人生の先輩として尊厳を大切にしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として基本的な一日の流れは持っているが、時間にしばったり強制をすることなく一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して個別性の支援をしている。入浴なども希望を優先している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ、工夫された献立表が本部から提示されるが、利用者の好みや体調に合わせて変更したり、畑の収穫野菜を使ったりして食事を提供している。会話を楽しみつつ、職員も同じテーブルで介助が必要な利用者には寄り添って支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日まで入浴日として、利用者は週2～3回入浴している。ほとんどの利用者は入浴を好み、仲の良い人同士一緒に浴室でサロンのように楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の中で利用者の出来ること、出来ないことを検討すると特に役割を決めることはないが、自然な形で出来ることを協力してもらい感謝の言葉で喜びを体験できるように配慮している。集団遊びを取り入れて楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が食材購入時、利用者も買い物に同行したり事業所の周囲を散歩したり、頻繁に外出の機会を作っている。前庭にある東屋では、車椅子利用者も日光浴など楽しんでいる。屋外行事も車を利用して公園散策や外食など支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の造りは室内から把握が容易で、日中は施錠していない。また、センサーを設置して出入りがわかるようにしている。帰宅願望の対応や外出好みの利用者には、職員間で協力体制を検討して実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練は年1回実施されているが、夜間想定訓練はまだ行われていない。防災マニュアルや連絡網、役割などは整備されたが、防火管理者が事業所の常勤者でない。		災害時の対策としては不十分な点がみられる。地域への協力呼びかけは近隣住民だけでなく、町内会組織との協体制を築く取り組みに期待したい。夜間想定を含め年2回の避難訓練の実施や救急救命講習の受講などの取り組みにも期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を法人本部で作成し、栄養士の点検を受けてバランスの良い食事が提供されている。摂取量や水分量などは記録され個別の把握が的確にされており、職員は食事介助が必要な利用者には寄り添って支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い明るい居間は、ガラスごしに利用者の様子が分かり開放的である。また、外の景色が利用者の刺激となり、散歩や外出の気持ちを促してくれる。壁には手作りの作品や写真、額などが飾られ心地良い雰囲気があり、付属するサンルームは日光浴に最適である。食卓とは別にソファやテーブルがあり、居間でゆったりと過ごせるよう工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の周囲にある各自の居室は入口に名札がなくても混乱はなく、それぞれ馴染みの居場所になっている。居室にはベッド、テレビ、タンスなどを使いやすく配置し、日中は居間で過ごし、居室は寝室の役割をしている。入口には个性的に暖簾がかけられている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。